

## 古高取を伝える会会報

### 直方の高取焼



古高取

目次	
古高取の魅力伝える	2
古高取の広場	2
活動の記録	4
なんでも掲示板	7

昨年の読売新聞の記事に「誇りから始まる街づくり」という記者ノートがあった。

『文化や芸術を街づくりに生かし、関連産業などを集積させた「創造都市」を目指す動きが世界的に広がっている。「創造都市」の成功例として知られるフランスのナント市では、市予算の10%以上をつぎ込んで街の再生に乗り出した。肝心なのは、街の衰退とともに失われた住民の街への誇りや自信を回復させることであり、芸術には人々の潜在的な創造力を触発する力があるという。』

記事は『そこに住む人々が街の歴史に誇りを持つことから街づくりは始まる』とむすんでいる。

私達も、高取焼の発祥の地であり、「古高取」と呼ばれる数多くの名陶が生み出した、のがたの街の歴史に、さまざまな角度から光をあて、街づくりに参加していききたいと想う。

隅田 知明

## 古高取の魅力を伝える

「伸びたい」と願う心

会長 能間 瀧次

長年、教育の仕事に携わってきて感じることは、数年を単位に社会がめまぐるしく変わり、その速度に教育現場が戸惑っているような状況がみられることである。その最たる被害者といえるのが子供たちではないかと思うと心が痛む。現代っ子は「集団生活になじめない」「指示されるまで動けない」「忍耐力がない」「すぐキレる」などなど挙げればきりが無いほどの形容をされる。しかし、どの子もそうなると思う者は一人もいないはずである。誰だって「よくなりたいたい。もっと伸びたい」という願いをもっている。

古高取を伝える会では、直方市内全小学校六年生の子供たちと毎年焼物づくり(マイ茶碗)を続けている。そこでは、子供たちが熱中して取り組んだ素晴らしい茶碗が生まれている。個々の子供の思いや願いが形にあらわれ「よくなりたいたい。もっと伸びたい」と思う気持ちが茶碗全体に乗り移るのだから。



さて、かく言う私にも人並みに「伸びたい」と願う心がある。

作陶活動の中で、少しでも自分を表現できる器を作りたいと切望している。そのために、時間を見つけてロクロと格闘している。伸びたいと願う心は、老いてもなお変わらず持ち続けるべきものであり、私もそうありたいと心に決めている。

そのことが生活に活力を生み、日々を潤す力になるような気がする。よしんば若返りの秘訣にでもなればこの上ない。

はじめに戻るが、現代の子供たちの夢を阻むものは何か。情報があふれ、何を選択すればよいのか分からず混乱することもそのひとつかも知れない。少子化のために過保護になって子供の自主性を妨げていることも確かである。その

反面、放任、育児放棄という家族環境の事実も深刻なことである。これらのハードルを越えるには、部分的な改革では追いつかないところまで来ている。社会全体(市・県・国)で「もっと伸びたい」と思う子供が、そうできるように様々な取り組みが急務である。

## 古高取の広場

直方と江月と雲心寺

河面 直人

高取焼開窯四〇〇年祭を行ってもう四年経ちました。内ヶ磯窯開窯から四〇〇年後は四年後です。

これと歴史を同じくするのが多賀神社近く、御館橋を渡った突き当たり

に在る積翠山雲心禅寺です。雲心寺は臨済宗大徳派に属し、開山は江月宗玩(こうげつそうがん)(1574~1643年)信長の三茶頭と呼ばれた堺の納谷衆津田宗及の子で、堺南宗寺で笑嶺宗訢(しょうらいそうきん)(1505~



83年)について得度(仏門に入ること)、後に春屋宗園(しゅんおくそうえん)(1529~1611年)に参じて法を嗣いだ。師とともに黒田長政の外護を受け、長政が筑前国主となると博多崇福寺の復興協力を求め、慶長十一年(1606)には長政の請いにより大徳寺山内龍光院を創建し、同十五年三十七歳で大徳寺一五六世住持となる。

又、博多に下向し崇福寺の住持となり、これを中興した。

なお、この龍光院は佐久間将監の寸松庵も境内に建立(寸松庵色

紙で有名)、寺宝には筑紫文琳、窯変天目、油滴天目、龍光院井戸、密庵墨蹟、伝牧谿筆柿栗図等数多く、又「天王寺屋会記」の所有、茶室では国宝密庵席がある。

江月は父宗及の影響で茶湯を嗜み、小堀遠州、佐久間真勝、松花堂昭乗らと親交を結んでいる。と、そこまで書いてくると面白い想像が出来る。

某年某月某日 江月の父津田宗及と親交の深かった神谷宗湛に黒田長政、小堀遠州、佐久間将監、松花堂昭乗が主の江月宗玩のもと密庵の茶席で茶湯を楽しみながら父宗及の残した名物茶器切型を中に今度の茶入の相談などをしていく。そして次の内ヶ磯窯の窯入れではこんな茶入を作らせようとか、釉薬はどうだとか話し合っている場面である。と考えると時の京の文化人が高取焼と関係があると思うと楽しくなってくる。・・・

江月三百七十回忌が三年後になる。東連寺藩初代藩主黒田高政(隆政)公の三百七十回忌は終わったが、雲心寺でこの御二人に子供達を作った茶盃で供茶をするのも面白いと思うが如何?

## 直方には古高取がある

一尾 泰嗣

高取焼は地域を持つ日本を代表する偉大な遺産です。福智山ダム建設に伴う窯跡調査資料、福岡市美術館の「大名茶陶、高取焼」等々の、著書の末尾に唐津焼、萩焼、上野焼と伝えられていた多くの作品が、内ヶ磯窯の発掘調査により高取焼と特定されたように謎が多く再考が求められていました。「古高取を伝える会」などの地道な活動で、古高取の時代背景や巨大



福智山ダム湖畔(直方市頓野内ヶ磯)

な登り窯から生産され、豊かな筑豊平野に育まれた陶器が、遠賀川から芦屋、唐津の海へ、遠くは京都の地まで様々なドラマを抱えながら輸送され、躍動した時代が再現されようとしています。関係者の期待はもちろんですが、故郷に新たな歴史が刻まれようとしており、楽しみでなりません。「古高取を伝える会」は、陶芸教室や、マイ茶碗等の作成を推進し、自ら陶器を焼き陶器の魅力を高め、勉強会や広報の充実等、地道な活動で一步一步ですが地域に確実に浸透しています。

2011年に九州新幹線鹿児島ルートが開通し、筑豊インターチェンジも開設します。九州の時代の到来と共に、アジアとの交流を意識し、同じ歴史を共有した筑前の国焼「高取焼」、豊前の「上野焼」、及び「唐津焼」、「薩摩焼」、「萩焼」等の窯元が一致団結し、九州の観光と九州の陶器の時代を築いていく視点も必要と感じます。国内外から陶器を訪ねて旅をする人々に高取焼の一角を加えれば、より多くの方に「古高取」の価値と存在を知らせていく有効な手段と考えます。

高取焼は宅間、内ヶ磯、白旗、小石原、西新と活動の場が転々と

し、筑前の御用窯としての認識と歴史が知られていない感じがしています。直方の地元の方や高取焼愛好者、茶道家、書道、華道、福智山麓で活動する様々な分野の方々も更に一致団結し、「古高取」の魅力発信する気概が必要だと思います。

福智山麓には、宿泊可能な「いこいの村」、研修機関の「中小企業大学」「花公園」未利用の工芸の里、ダムの豊かな水資源、これに日本を代表する「古高取」の魅力が加われば、歴史と自然に調和された文化都市、観光産業が育っていく街として生き生きと蘇っていく予感がします。

「古高取を伝える会」の活動は直方市に豊かさを増し、「直方は？」と訪ねられたら「古高取」といえる町になる様、皆様と一緒に頑張っていきたいと思います。



鉛釉耳付花入(個人所蔵)  
箱書きには、唐津花入と書かれていた。

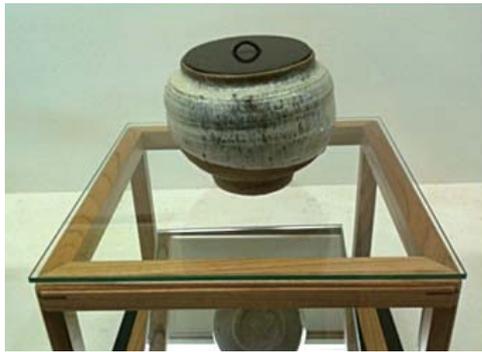
桜の盛りを過ぎたころ秋月に

栗原 隆

「秋月の桜が素敵らしい」と何処からか聴いてきた妻に誘われて土曜日の朝早く彼女のドライブで出かけました。旧城下に入って天然酵母のパンのお店や葛の老舗に目をつけながら、まずは、お城跡を散策。寺院ではないので参道というのとはならないかもしれませんが小さな橋を渡ってそれらしい桜並木の道を歩き始めると、すぐ右手に「秋月美術館」。壁に貼られた案内には「高取」のキーワード、さてこそこれは古織翁の導きか門をくぐり、本館で沢山の大きな壺を眺め、離れの茶室に躡り口から入って、独特のひやりとした空気と障子のフィルターで柔らかくなった明りの仄暖かさが時の流れを減速してくれるのに心地良くして貰って、新館へ。そこはなんと素晴らしいコレクションでしょう！ 宅間、内ヶ磯、山田窯の選りすぐられた一品一品が丁寧に展示されています。館を出て早速、古高取研究家の小山さんに携帯電話で報告。小山さんの現物を目の当たりにしているかのような御教授に啓発され、また新館に引き返して

再鑑賞した次第。この美術館はヨーロッパのように写真撮影自由なので、いつくしむように撮った一枚を載せておきます。

そのあと秋月城跡を左手に見ながら桜並木の道を黒門まで歩いて、Uターン。復路は日に当った方向から桜を見る位置関係のせいとか、雲霞する羽虫さえ気にならず、一層鮮やかな花や新葉を満喫しながら散策を終えました。城下を去る前に、天然酵母のカレーパンを一つずつ買って、妻と二人、眼鏡橋の近くのベンチで少し早いランチをしました。足元にはオランダ耳菜草、遠くの山には梨の白い花が見えました。それから、iPhoneに収めた古高取の水指の写真（掲



斑釉広口水指(17世紀初期、内ヶ磯窯)  
口の内側に蓋受けの段がある丁寧な造り。フォルムと程よい小ささと色合いの調和が素晴らしい。

載)を呼び出して眺め、もう一度、思いがけない出会いの記念を確認したのでした。



活動の記録

●子供焼物教室  
「ひなの会」

〈平成二十二年三月四日(木)〉  
場所…新入小学校

子ども達は、お茶をお運びしたり、自分で作ったお茶碗でお茶をいただいたりと、なごやかで楽しい一時を過ごすことができました。「お熱いうちにどうぞ。」  
「美味しくいただきました。」等々お茶を通してやりとりする事で『茶の心』も少し感じ取れたような気が致しました。  
小学校生徒の思い出の一頁になれば幸いです。

浅原 喜代子



●子供焼物教室  
「お茶会」

〈平成二十二年三月九日(火)〉  
場所…直方西小学校

お茶、お菓子のいただき方をお稽古しました。自分で作ったお茶碗でお互いにお茶を点て合い、楽しいひとときを過ごしました。  
質問コーナーでは、日隈先生にいろいろと尋ね子供達も興味津々の様子でした。

田中 紀子



●地域対象焼物教室  
「福智山ろく花園」

〈平成二十二年三月十四日(日)〉  
場所：福智山ろく花園(直方市  
永満寺百合原1498番地)  
費用：二五〇〇円(材料費、焼成費)

高取焼発祥の地、永満寺での初めての試みでした。  
多くの方達の参加があり楽しいひとときでした。古高取をもっと知っていただける様な活動に発展させるためにも花の中でマイ茶碗茶会を催せたらいいなと考えています。

永富 セツ子



●金剛山もとり保全協議会への参加について

〈平成二十二年四月一日(土)〉  
場所：もとりハウス

本年四月一日『金剛山もとり保全協議会』が、直方市藤田丸の「もとりハウス」を拠点として発足致しました。  
「もとりハウス」では、昨年十一月に里山焼物教室を実施しました。  
「古高取を伝える会」もこの会に参加することに致しました。

『金剛山もとり保全協議会』発足の目的は

- 不法行為等の監視活動
  - 自然環境の適正な活動
  - その他里山保全に必要な活動
- であり、会としては、今後とも施設の有効活用をしながら自然いっばいの中で、会員の皆様に里山で楽しんでもらえる様な方向の参加にしたいと考えています。

鷹取 宗恵

●「チューリップフェア」に参加！

(直方市賑わいまちづくり協議会)  
〈平成二十二年四月三日(土)、四日(日)〉  
場所：直方リバーサイドパーク



リバーサイドで実施されたチューリップ祭りの期間中四月三日、四日「ゆたろつと直方昔歩き、レトロタウンウォークラリー」の案内

配布に「古高取を伝える会」の会員四名が参加しました。

末松 登志子

●平成二十二年定期総会および記念講演

〈平成二十二年五月十六日(日)〉  
場所：直方中央公民館 第三学習室  
『記念講演』宗湛と織部

講師：副島邦弘氏

二十一年度の報告と二十二年度の計画が承認されました。  
これからも会員の皆さんの声を真摯に受け止め充実した会の運営に努めて行く決意です。



平成22年（2010年）年間スケジュール

月	全体行事	学習部会	広報部会	焼物教室部会	その他 関連行事
4	理事会（1）				
5	定期総会	見学会 出光美術館 「古唐津展」	会報6号発刊		ほたると小さな 音楽会
6	理事会（2）	高取焼基礎研修 講座（第1回） 「宗湛日記を中心に」		小学6年対象 焼物教室	
7	理事会（3）	高取焼基礎研修 講座（第2回）	標識設置		
8	理事会（4）	高取焼基礎研修 講座（第3回）			
9	理事会（5）、 直方の宝 「古高取展」	高取焼基礎研修 講座（第4回）	会報7号発刊	小学6年対象 焼物教室	
10	理事会（6）	高取焼基礎研修 講座（第5回）		焼物教室（1）	
11	理事会（7）、 紅葉ウォーキング	バスハイク 「神屋宗湛の遺跡を 訪ねて」			
12	理事会（8）			焼物教室（2）	
1	理事会（9）		会報8号発刊		
2	理事会（10）			焼物教室（3）	
3	理事会（11）				

## なんでも掲示板

### ●古高取を作って

直方北小学校六年一組  
中村花穂



私は、古高取を作って、大変だったけど上手に作れたと思います。小山さんが、丁寧に教えてくださってとてもわかりやすかったです。また、直方に古高取という世界的にも有名な焼き物があると知ってびっくりしました。こんな有名な古高取が身近にありながらあまり知られていないので、私たちがこの古高取の良さをいろんな人に伝えていきたいと思います。

### ●「桃山茶陶を焼いた内ヶ磯古窯」

会員の小山亘さんが、『西日本文化』（二〇一〇年四月号）に『織部好み』を焼いた筑前藩窯を発表した。小山さんはこの研究発表で「内ヶ磯古窯では、京都の陶工がやって来て織部好みの茶碗を焼いたと考えられる」との見方をしており、古高取の研究に新たな問題提起をしたことで注目される。



### ●須崎町公園ステージで、いけばな体験教室

平成二十二年四月四日(日)、直方市須崎町公園で行われた「須崎町公園ステージ」で古高取のパネル展示といけばな体験教室が催されました。体験教室は、「いけばな小原流」筑豊支部が来場したお客様を対象にボランティアで指導。出来上がった作品は、各自持って帰りました。良い体験でした。



### ●「高取焼陶器まつり」

〈平成二十二年四月二十三日(金) 二十五日(日)〉  
場所：直方市畑・永満寺地区

直方の地元窯元や畑公民館等で、陶器販売はもちろん、地元の農産物や特産物等の販売も行われました。毎年、春と秋に開催されます。



### ●古高取(宅間・内ヶ磯)展

〈平成二十二年五月二十二日(土) 二十三日(日)〉  
場所：福智山ろく花公園 研修室  
観覧：無料

高取焼内ヶ磯窯記念碑建立記念の古高取展が開催され、多くのお客様が古高取の魅力に触れました。



● 高取焼内ヶ磯窯記念碑除幕式典

〈平成二十二年五月二十三日(日)〉  
場所：福智山ダム湖畔(直方市  
頓野内ヶ磯)  
主催：古高取を顕彰する会  
内ヶ磯公民館

地元住民や陶磁関係者など約80人が参加して除幕式が行われました。挨拶では、揮ごうした麻生前首相や向野市長らが古高取の重要性を話しました。当会からは、能間会長が出席しました。



【地域対象焼物教室に参加して】

● 福智山ろく花園での焼物教室に参加した「植木若竹子供会」の子供たちが感想を書いてくれました。

やきものを作ってみて、最初は土がやわらかで、うまくできるかなと思っていたけど、出来あがりがかうまくできていて、うれしかったです。

みゆ

さいしよは、むずかしかったけど、でもじょうずにできて、うれしかったです。

梨沙

土ねんどをお茶わんの形にするのがむずかしかったです。

だけど、できあがった自分の作品を見てみるとまあまあできているんじゃないかなと思いました。

ゆうき

むずかしかったけどたのしかったです。

温

初めて焼き物を作ったのでとてもむずかしかったけど、とてもおもしろかったです。焼き上がった後の器の色もきれいでうれしかったです。

めい

はじめてお茶わんを作りました。たのしかったです。

かよ

わたしは、はじめておさら作りをしました。最初はいい形でできていたんですが、あとからちよつとくずれてきたのであせつてしまったけど楽しかったです。

わかな

● 会報がご覧になれます

「古高取を伝える会」のホームページ(<http://www.takatop.org>)では、いままでに発行した会報をご覧になることができます。



〈掲載内容募集〉

「古高取」の魅力を発信するためのイベント情報など募集しています。掲載可能な情報等がございましたら、事務局までご連絡ください。

〈編集後記〉

高取焼開窯四〇〇年祭(二〇〇六)の事業を受け継いで発足した当会は、本年度三年目を迎えました。その開窯四〇〇年祭の時に始めた”世界に一つだけのマイ茶碗作り”は、今も続いており、これまで3761個もの”マイ茶碗”を制作しました。二〇一四年は、内ヶ磯窯開窯四〇〇年です。それまでにいくつ茶碗が出来るか楽しみです。会報では毎回お知らせしていきます。手作りの和が地域で少しでも大きくなることを願っています。

「古高取通信」会報・NO6

〈発行〉

古高取を伝える会

〈発行日〉

平成二十二年五月三十一日

〈現在の会員数〉

正会員 一〇一名  
賛助会員 二十六名(三十九口)  
団体 三団体(三口)

〈マイ茶碗の数〉

3761個

〈事務局〉

〒八二二一〇〇二六  
福岡県直方市津田町七十四  
TEL 〇九四九(二三)一一三二